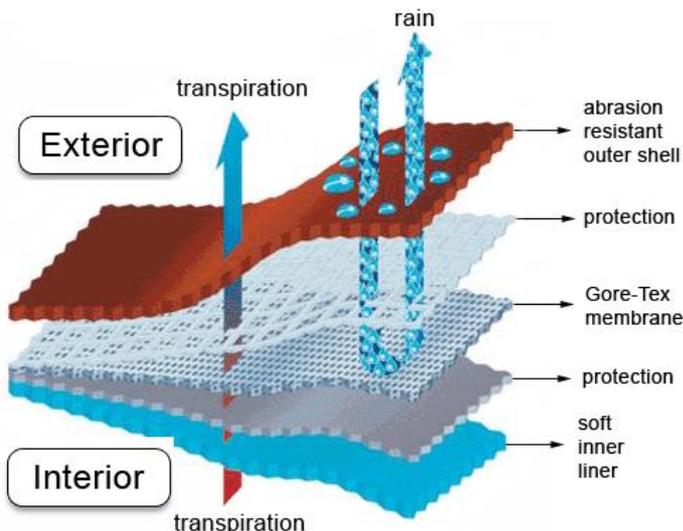


胸部大動脈瘤のステントグラフト治療

自治医科大学附属病院 血管内治療センター大動脈治療部（心臓血管外科）

日本では 2008 年に胸部大動脈瘤の治療用のステントグラフトが薬事承認をうけて以降、胸部大動脈瘤の治療法にステントグラフト内挿術が選択できるようになりました。

本年には薬事承認から 5 年が経過することとなりますが、ここでは現在までに使用されている企業性ステントグラフトについて簡単に触れ、自治医科大学附属病院循環器センターでの最近 7 年間の胸部大動脈瘤治療の変遷について報告します。



ePTFE

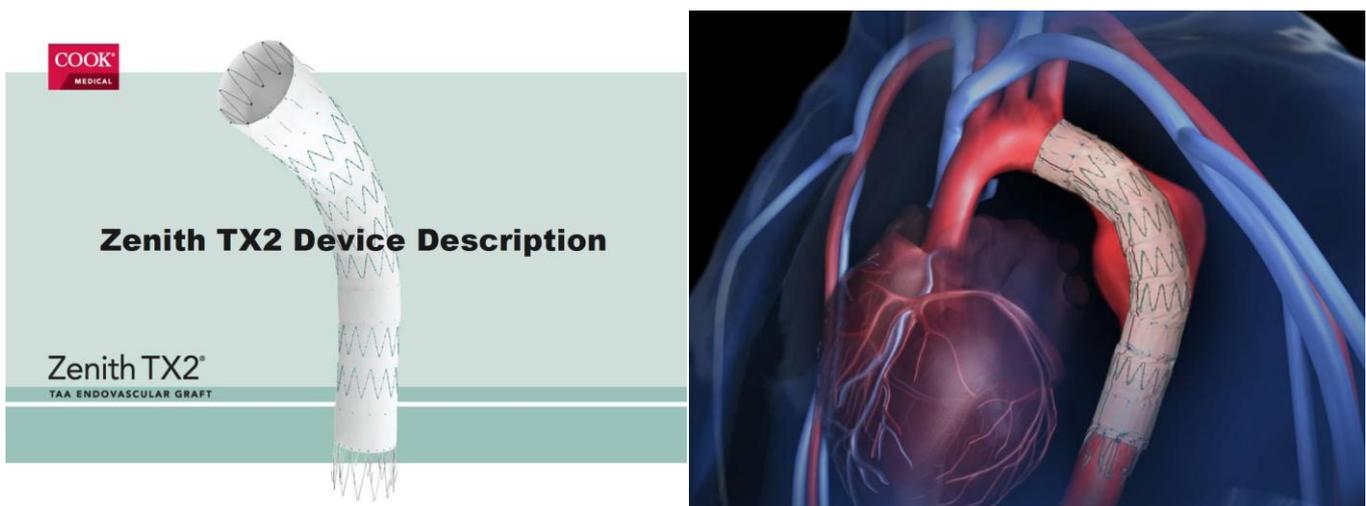
① ゴア TAG 胸部大動脈ステントグラフトシステム

2008年4月に本邦初の薬事承認をうけたデバイスで、ePTFE グラフト + ナイチノールステントで構成されています。屈曲・蛇行血管への追従性に優れています。



② Talent Thoracic Stent Graft

2009年4月に本邦で薬事承認となりました。2012年3月には後継機種にあたる Valiant Captivia が承認されました。



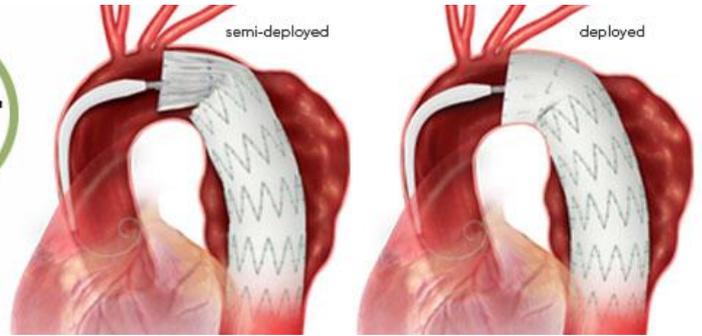
Zenith® TX2®

TAA ENDOVASCULAR GRAFT

with
Pro-Form™

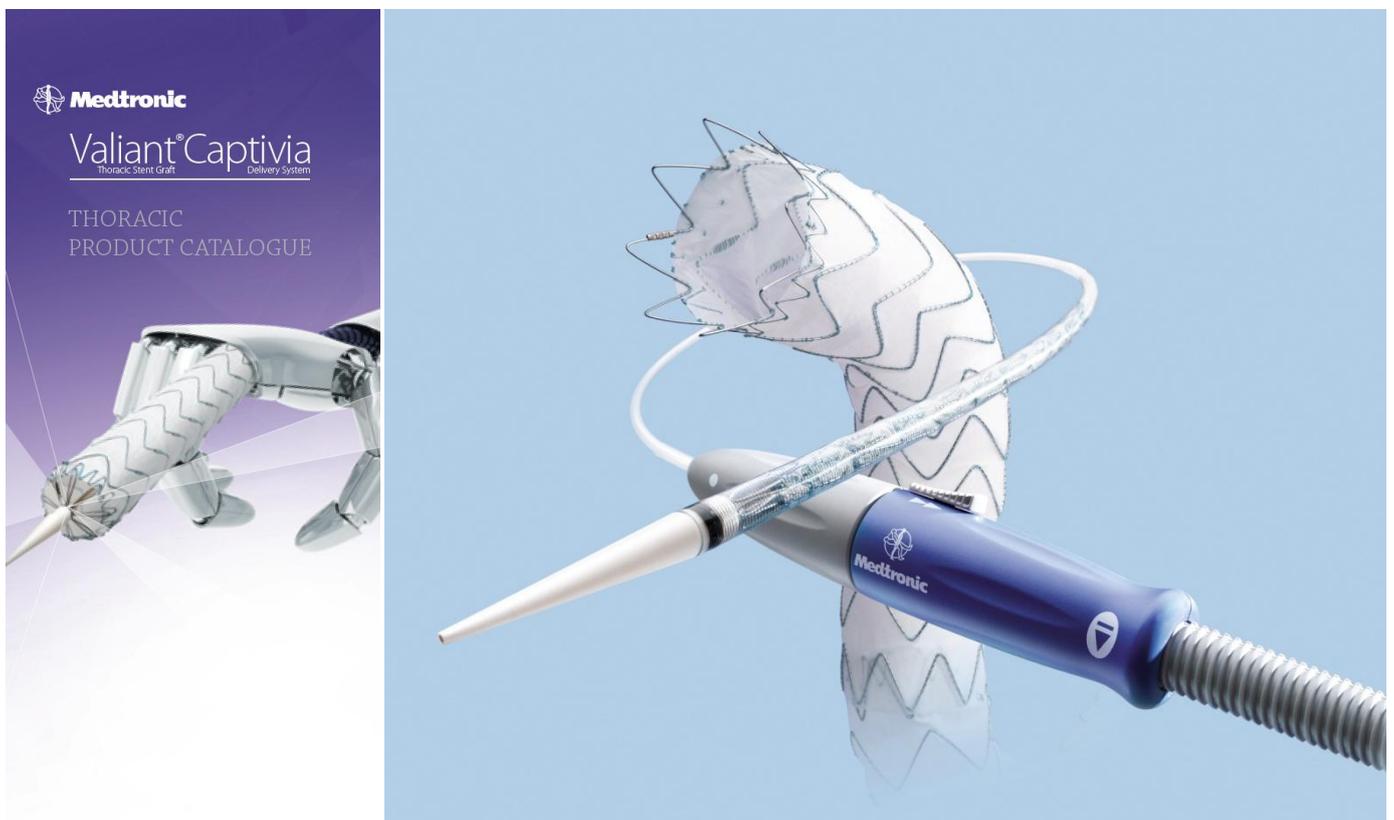
Transcend: Control

Achieve unrivaled proximal conformity and apposition.



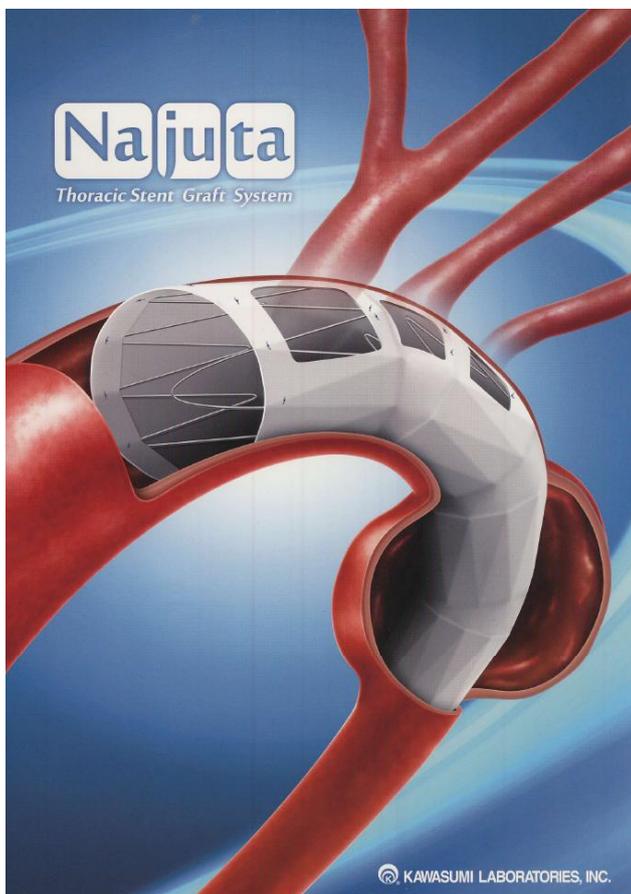
③ COOK Zenith TX2 TAA エンドバスキュラーグラフト

Zenith の構造であるウーブンポリエステルグラフト + Z ステントで構成されます。2011 年 5 月より使用開始されました。2012 年 10 月より Z-Trak Plus デリバリーシステム Pro-Form 仕様デバイスが追加されました。



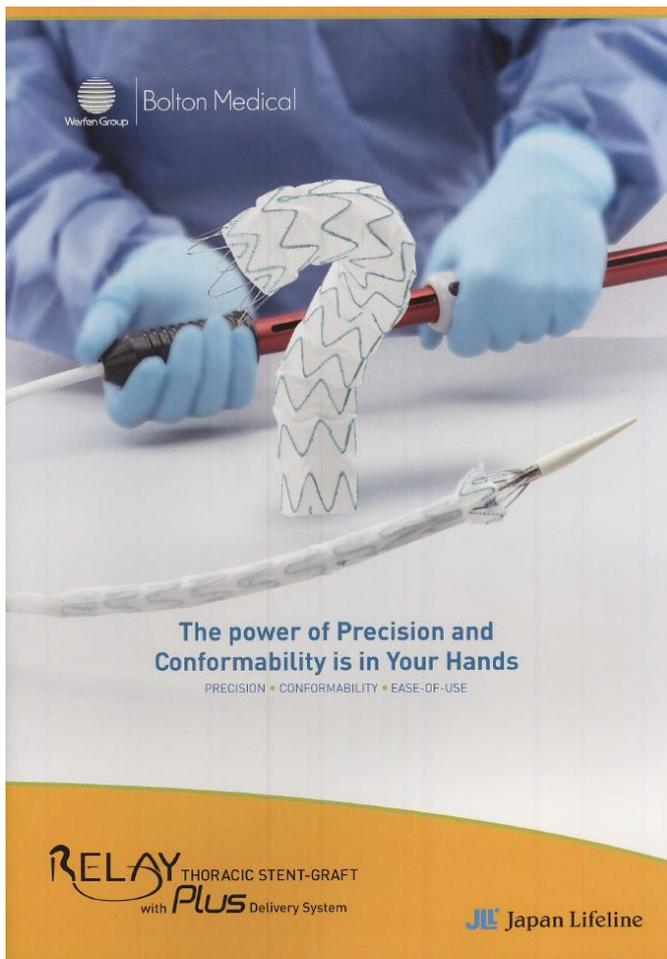
④ Valiant Captivia

ウーブンポリエステルグラフト + ナイチノールステントで構成されます。2012 年 3 月に薬事承認となりました。



⑤ カワスミ Najuta 胸部ステントグラフトシステム

2012年12月に薬事承認されました。大動脈遠位弓部および下行の血管の三次元的屈曲に近似した規格をセミオーダーシステムで選択するデバイスです。大動脈弓部における目的病変の分枝血管にフェネストレーションを合わせて留置することで分枝血管への血流を妨げることなく上行大動脈までの留置が可能となります。留置する大動脈の部位や形状に合わせるために、フェネストレーションの位置、湾曲形状の違いにより、64規格のステント骨格を基本形状として設定しています。



⑥ RELAY Plus 胸部ステントグラフトシステム

2013年4月に薬事承認されました。デリバリーシステムが、アウターシースとインナーシースの二重構造となっており、アウターシースには親水性コーティングを施すことで血管内でのスムーズな操作を可能にし、インナーシースには柔軟な素材を用いることにより病変部位の損傷を軽減するとともに、先端部に採用された独自の機構により病変部位への的確な留置が可能となっています。

本邦では以上のような企業性デバイスが薬事承認されていますが、その臨床使用には、機種別に構造などに関する知識や経験を持った医師が携わることとなっており、関連10学会で構成された日本ステントグラフト実施基準管理委員会により、個々の機種別に実施医、指導医が設けられています。

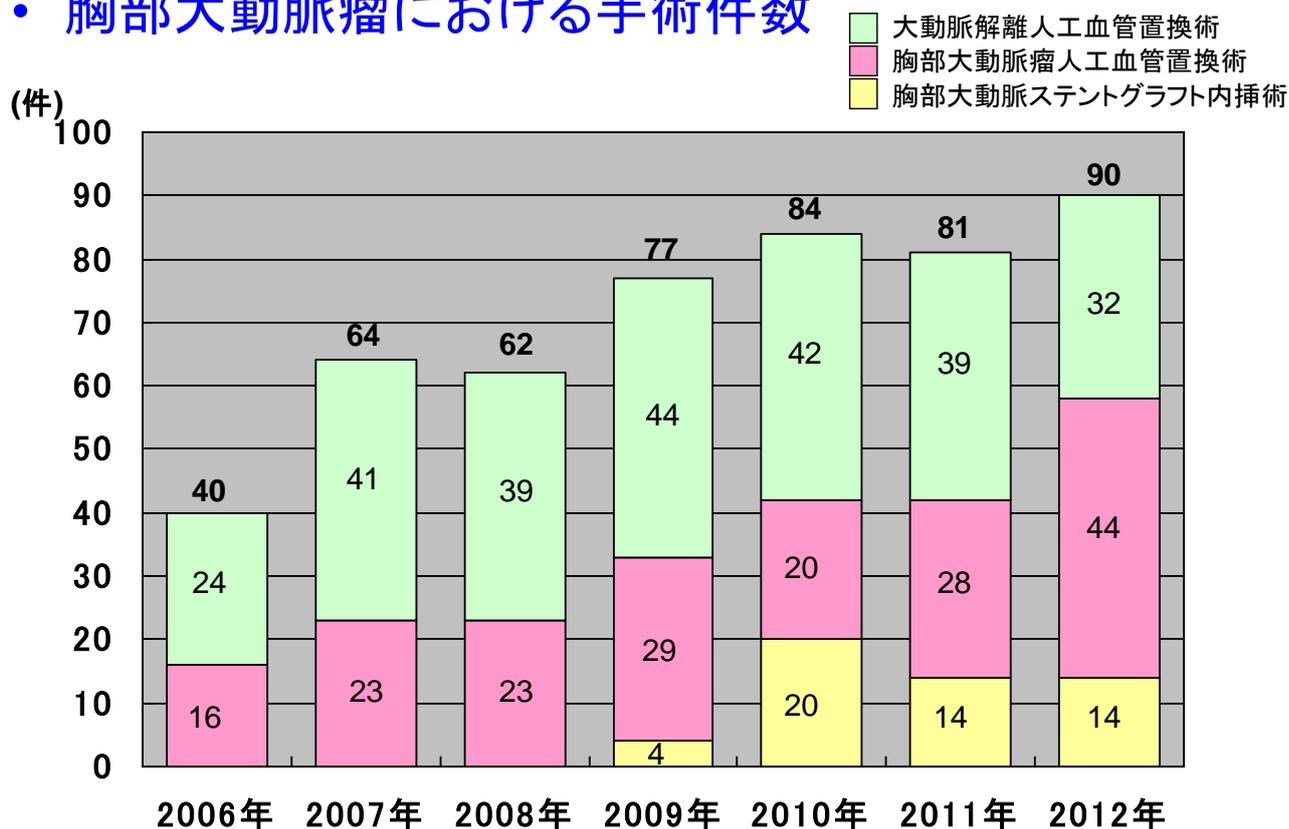
当施設に常勤している企業性デバイスの実施医、指導医については以下の通りです。

- ① ゴア TAG : 実施医、指導医
- ② Talent Thoracic Stent Graft : 実施医、指導医
- ③ Zenith TX2 : 実施医、指導医

- ④ Valiant Captivia : 実施医、指導医
- ⑤ Najuta : 常勤なし
- ⑥ Relay Plus : 実施医

自治医科大学附属病院での近況

・ 胸部大動脈瘤における手術件数



最近7年間の胸部大動脈瘤手術状況

循環器センター（心臓血管外科）では2009年10月より胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術を開始して、順調に症例を重ねてきています。また、緊急症例などの開胸による手術への対応も従来より迅速に行っており胸部大動脈全体での手術件数では増加傾向となっています。胸部大動脈ステントグラフト内挿術では、開始より連続50例で手術死亡0でした。今後もひきつづき低侵襲な胸部大動脈瘤治療を提供すべくチーム医療を遂行してまいります。